

子供は、支えられる存在です。けれども時に人を大きく支える存在となります。
そのことを自覚して、日々過ごしてほしいと思い、9月のお話朝会で次のように話しました。

おはようございます。

校長先生から、「支える」ということについて、お話をします。
今皆さんは子供で、周りの大人にたくさん支えられながら過ごしている「支えられる人」です。
けれども皆さんは、「人を支えられる人」でもあるということをしっかり知って欲しいと思っています。

今日は、人を支える具体的で簡単に取り組める方法を校長先生が教えます。
題して「秘密の友達」です。

まず、クラスの中で「秘密の友達」を一人だけ決めてください。
皆さんの仲良しのお友達は「秘密の友達」にはなりません。
「秘密の友達」は誰にも知られてはいけません。
仲良しのお友達は秘密の友達候補からは省いてください。
「秘密の友達」には、なるべく普段あまり遊んだり話したりしない、そんな人を選んでください。

そして決めたら、1週間、その「秘密の友達」をどんな時でも、他の人に知られないように助けることに精を出します。
例えば、その子が消しゴムをポロっと落としたら何気ない顔でさっと拾って戻す。
廊下でその子の描いた絵がはがれてしまっていたら、そそっと貼り直す。
その子が怪我をしてしまったら、真っ先に先生に「誰々ちゃんが怪我をしました」と伝える。
友達に陰で悪口を言われていたら、「そうは思わないけど」と決して同調しない。
…そんなふうに秘密の友達を陰ながら支える役になり切ります。

人は、何かに関われれば関わるほど、時間をかければかけるほど、親しみや愛情を感じやすくなる
とされています。
こっそりだけれどもたくさん関わることで、「秘密の友達」への親しみが増します。
1週間が終わったら、また違う人を「秘密の友達」に選びます。
もし不十分だなと思ったら、またもう1週間延ばしても大丈夫です。
そうやって誰かを支え続けてみてください。
今年度、あと29週間あります。ですから1週間に一人ずつで、これから29人の人を「秘密の友達」として陰ながら支えることができる計算です。

「支える」ということは、決して大げさなことではありません。消しゴムを拾ってあげるとか、ほんのささやかなことでも構わないのです。
ただ、人を支えるという心向きをぜひ皆さんにはもってほしい。
支えることで、人に力をあげられるということを知って、損得なく「人を支える人」になって欲しいと校長先生は思っています。

「秘密の友達」、是非チャレンジしてみてください。
校長先生のお話は終わりです。